

グローバル高等教育市場において「留学生」に選ばれる大学を目指して 山梨学院大学が「全学的国際化」に向け果敢に挑戦

山梨学院大学

グローバル人材育成に向けて「全学的国際化」を旗印に掲げる山梨学院大学。数値目標を設定しながら、具体的な取り組みを進めている。中でも「国際リベラルアーツ学部(iCLA)」は、国内にいながら授業のほとんどを英語で受けられる学習環境が大きな特色だ。さらに中国・西安交通大学とのダブルディグリープログラムを始動するなど、海外大学との協働にも注力している。同大学が推進するグローバル人材育成の実態に迫った。

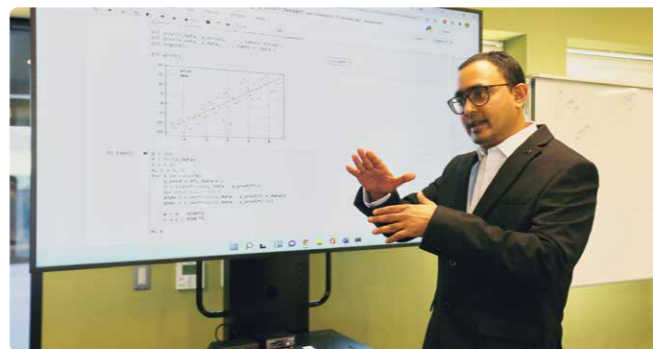
山梨学院大学は大学の改革ビジョンである「全学的国際化」実現に当たり、「30プロジェクト」を推進している。これは2030年までに学生・教員・職員の外国人比率と、全授業科目のうち外国語で行う授業の割合をそれぞれ30%に引き上げるといふものだ。取り組みの成果は着実に

表れているという。国際リベラルアーツ学部学部長のサンジェイ・ジンガン氏は「現在、正規生だけでも40以上の国と地域から約200人の留学生が進学しています。海外の提携大学からの交換留学生も300人以上に達してい

ます」と紹介する。国際リベラルアーツ学部(iCLA)は15年に誕生した新しい学部だ。特徴は少人数制で、かつ授業のほとんどを英語で行うこと。実際に専任教員の約6割が外国人教員、さらに在学生の約7割は留学生が占めているため、日本人学生にとっても、国内にいながら多様な価値観に触れられる経験となりそうだ。



「コロナ禍で日本に來れない留学生もいましたが、ビデオ会議システムなどを活用したオンライン授業の体制をいち早く確立しました。留学生の出身国の時差などに配慮したカリキュラムを構築しているほか、一人ひとりの悩みや不安の解消につながる丁寧なサポートも行っています。」



Data Scienceを統合したカリキュラムの実践のために招聘したAbhishek PARIDA講師

メジャー新設のため整備したデータサイエンスラボ



「iCLAでは、1つの専門分野にとどまらず、多様な分野を横断型で学ぶことができるリベラルアーツカ

リキュラムを提供。カリキュラムは「Global Business & Economics」「Political Science」「Interdisciplinary Arts」「Japan Studies」のメジャーで構成。23年度からはメタバース時代到来を見据え「Data Science」のメジャーを新設予定だという。リベラルアーツとData Scienceを統合したカリキュラムの実践のために、21年度に専門知識を備えた経験豊富なインド国籍のAbhishek・パリダ講師を

採用し、先行して関連科目を開講。また設備面では、同年度にデータサイエンスラボ(実習室)を新設し、年度進行で機械学習や深層学習(ディープラーニング)の研究にも対応できる高性能な設備も導入していく。同メジャーではプログラミングのブートキャンプを実施して、即戦力スキルを身につけさせるとともに、大学院進学に向けた支援も行い、学生の可能性を広げていく。

「大切なのは、大学で学ぶ4年間だけでなく、卒業して社会に出た後、グローバル人材としてどのように活躍できるかです。そのためにも、学生の興味や関心を引き出し、可能性の幅を広げ、時代に対応した教育を推進したいと考えています」と力を込めるジンガン氏。「全学的国際化」をリードする存在としても、iCLAへの期待がますます高まる。



中国・西安交通大学とのダブルディグリープログラム



大学で相互交換され、卒業時には山梨学院大学と西安交通大学の学位が取得できる。

さらに本プログラムの特徴として、入学金や初年度と4年目の授業料などの納入金相当額が支給される奨学金制度がある。少ない経済的負担で世界トップレベルの教育に触れる機会が用意されているのも魅力的だ。

中国・北京大学中国語学部と学術交流協定を締結

山梨学院大学は2021年7月「THE世界大学ランキング2022」でアジア首位の16位(清華大学と同率)である、北京大学の中国語学部と学術交流協定を締結。実際に22年度前期から、北京大学より中国語学部の教員が山梨学院大学に



派遣され、中国文化の講義を担当する。主に中国人留学生向けの講義だが、中国語レベルにより日本人学生も履修が可能だ。この交流により、両大学の文化交流促進、留学生の中国文化レベルの深化、世界レベルの教育機会の提供など、さまざまな教育的効果が期待される。北京大学中国語学部の杜曉勤学部長は「本学部は中国文化に深い理解を有する山梨学院大学と学術交流協定を締結でき、非常に喜ばしく思います。本学部では中国と日本の文化について深く研究しており、優れた教育効果を備えた教員を山梨学院大学に派遣します。北京大学の教員による授業を通じて、学生には中日文化の研究や交流に興味を持ってもらい、大学間交流をきっかけにして、両国間の学術・文化交流活動の促進に貢献できると思います」と両大学の提携の意義を述べた。

国際化への取り組みはiCLAだけにとどまらない。ほかにも、世界各国の大学と提携を結び、留学や教員派遣などの施策を計画・実現しており、とくに中国の大学との協働が活発だ。山梨学院大学は中国の目覚ましい経済発展を受け、今後はますます中国語を話せる高度なグローバル人材の需要が増えると予測。

そこで、これからの国際社会を先導できる人材の育成を目指し、2019年に中国国家重点大学の一つである、西安交通大学とダブルディグリー協定を締結。2022年4月には本プログラムの第1期生が入学した。

4年間の流れは以下のとおりだ。学生は山梨学院大学経営学部と西安交通大学経済金融学部・国際教育学部に在籍し、1年次は日本で中国語や高等数学、中国概論、コンピュータの基礎などの留学に必要な授業を履修。また、中国語専門教員による特別指導など、徹底した準備課程を経て、留学に必要な中国語レベルを向上させていく。

2・3年次には、西安交通大学で国際経済学や産業経済学、国際貿易、多国籍企業経営などを履修する。貴重な文化財や史跡が数多く残る、古都西安で過ごす2年間。留学生寮では異なる価値観や多様な文化に触れ、学業だけでなく生活面でもグローバルな視野の醸成が期待できる。

2年間の留学を経て、4年次には日本に戻る。そこから経営学概論や多国籍電子商取引、教養科目など卒業に必要な単位を履修し、帰国後も中国語の学習を続け、HSK(中国語検定)5級合格を目指す。4年間で修得した単位は両